金沢市と街路樹

正　宗　厳　敬

金沢は杜の都として有名である。私は金沢市内の道を歩いてしばしば民家の狭い庭から大きなタブノキ（写真①）クロマツ，ヒラギモクセイなどが道路にのし出ているのを見ることがあり，また百貨店などの屋上から町を俯瞰した時などには樹木が多いなあ，なるほど金沢は杜の都だなあと感心する。しかし町に買物などに出た時などには，なんて窮屈な緑の少い町だなとも考える。

最近卯辰山に登つて見たところ，私が以前植物観察のために散歩した山途はゴルフ場行の自動車道がとつてかわり，もとの山途は今は有るか無いかの状態になつてしまつていた。吾々庶民はここでも自動車の運行を気にしながら歩かなけねばならないはめに落入つてきた。

私たちは以前緑の地平線が都市から次第に遠のくのを嘆いていたが現在では，悠々放心状態で自然をたのしみながら散歩できる道もしだいに狭められて行くと言つたようになりつつある。

私は植物，動物（ヒトを含む）は一つの集団として生活しており，これらは互に密接な互のつながりを持ち，そのつながりは網の目よりもつとこんがらがつたものであり，このつながりをなくし，またはその一部を破壊することは人類の自殺行為にほかならないと思はれてしようがない。したがつて現在進展しつつあるいわゆる文化はこの自殺的な傾向を多分に含んでいる。この自殺的な文化の流れに抵抗するため私は出来るだけの努力をしたいと念願しているが，その一つとして我々の住む都市を出来るだけ住みやすく，健康にかなつたものにしたいと考えてその一つのやりかたとして，都市の緑化を進めようと思つており，その緑化の一端として，市内の道路に植物をうえたい。そこでこの私の構想の一端をここに発表することにした。

市の計画すべき問題の中の一つに街路の緑化がある。私は今金沢市を考えているのであるが，市内に幾つかの道巾の広いいわゆるブルーバードをつくることが先づ第一に取りあげられるべきではないかと考える。さしずめ広坂通などはその一つのモデルケースにすべきであろう。

私は次に主としてこのブルーバードを飾る樹木と言うよりは植物について述べたい。その

前に金沢市（主として旧市）にどんな街路樹，並木があつたか，また現在あるかを略述したい。

ここで有名であつたのは犀川堤のハゼ（写真②）の並木，並木町の松並木（写真④）浅野川堤防の榎木の並木などがあつたが現在ではいずれも衰微の一途を辿つている。私は最近犀川堤，浅野川堤の並木を調査に行つたが，非常に環境がわるく，散歩などには極めて不向な道路で，卯辰山とは逆に整備されていない。その他現在見られる並木として私の注意を引いたのをあげると，シダレヤナギ（写真⑥）また所にスズカケノキ，ノニレ，イチヨウ，ソメイヨシノ（写真④）クロマツなどが街路樹として見受けられる。これらの中ソメイヨシノが最も広く採用されている。この桜は花見のためにうえられたと見るべきもので，その他の点では並木として価値は少い。特に毛虫のつきやすいのは街路樹としてはよくない。

マツ（モミも）常緑樹なので冬の陽あたりを考えると，あまり感心しない。タブも金沢ではよく育ち庭園にはよいかもしれないが市街にはマツと同様な意味でよくない。

シダレヤナギはその樹型が優雅でまた若葉の緑が特に美しいが，一面葉が早くよごれる傾向が一つの欠点と見られる。金沢にはあまり枝のたれないシダレヤナギの一品種があり学問上珍重されている。この柳は犀川大橋の下ての川岸に相当大きなものがあるがその数が少ない。もし多数あれば見事な景観を展開することであり，金沢の名所となつたかもしれない。（写真⑥）金沢に多いヤナギにウンリュウヤナギと言うのがある。樹幹が捩れるのが特徴で生花などにもつかわれている。これも並樹に仕立たらどうだろう。柳類は言うまでもなく水辺を好むものが多いので川端に適することは言うまでもない。

イチヨウは街路樹として多くの美点を持ち，また実際よく植えられてもいるが，女木の場合だと実が生りはじめると，それが路面に落ちるとあまりよくない。今一つあまり大きくなりすぎるのも路の狭い場合にはよくない。

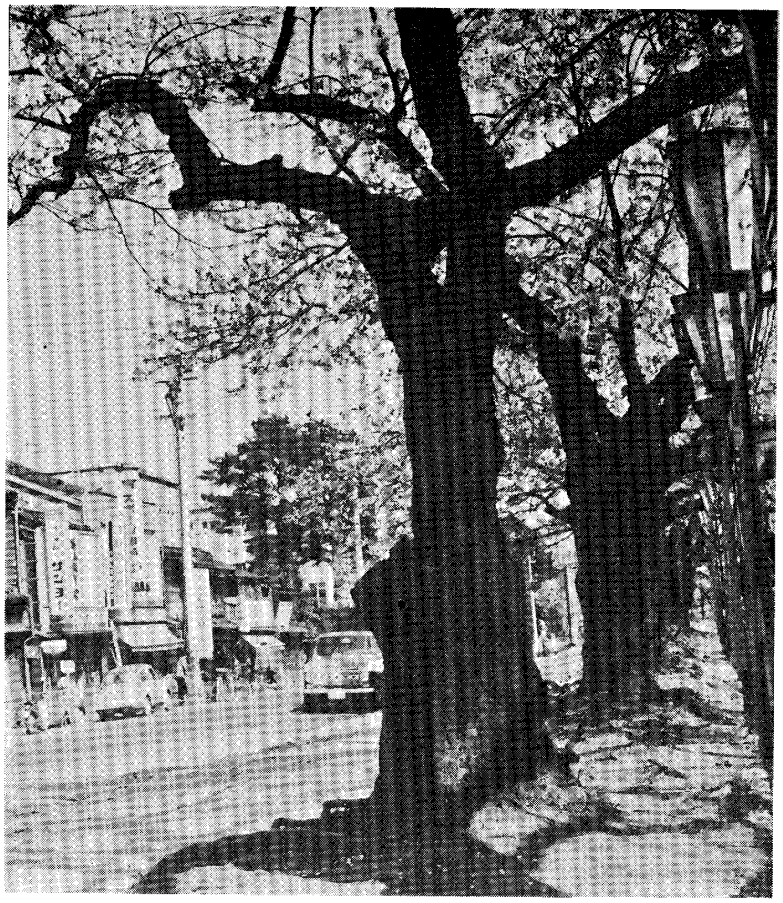
スズカケノキ。鈴をぶらさげたような実が生るので，こんな名をつけたのであろう。この鈴懸の木は街路樹としてすぐれたもので，また実際にもよく植えられている。樹皮の剥落した痕が色色の形をしており，そこに木間を漏れる陽光が落ちると，虹の七色のような色音が奏でられる。

ノニレ，満州方面から移入されたものであろう。金沢では並木として僅に見られるが，私にはまだよくわからない。

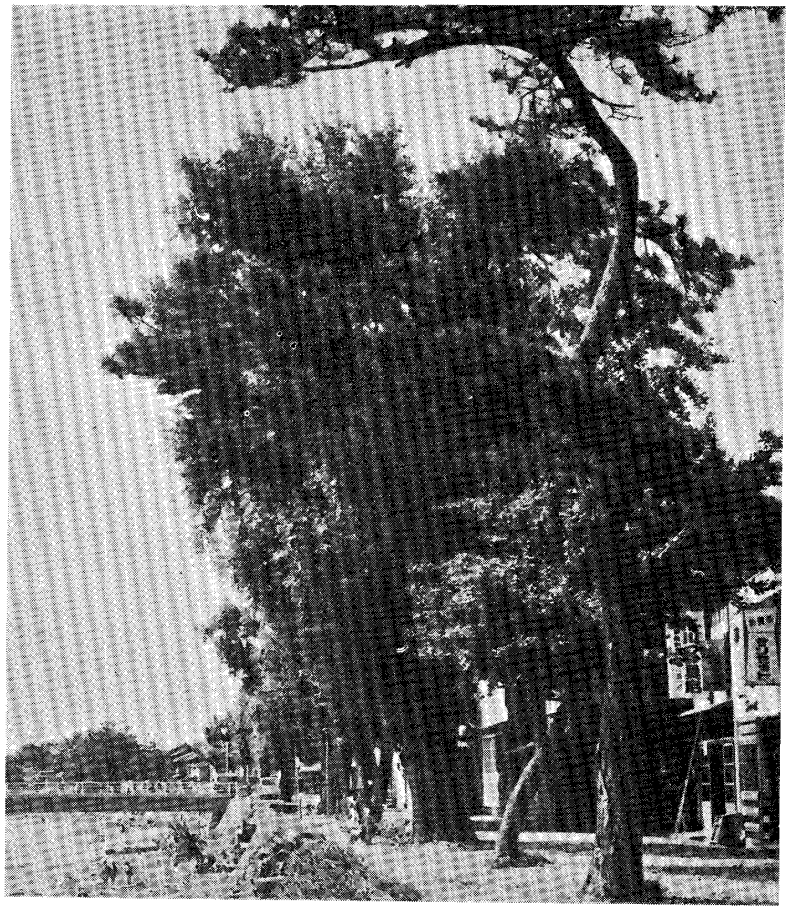
ハゼ，犀川（写真②）の堤防で昔ハゼの紅葉狩をしたと言う話をきくが今は，紅葉狩をす

(1) 民家の庭にあるタブの大木

(2) ハゼの並木



(3) 大手堀のソメイヨシノの並木



(4) 並木町のクロマツの並木

(5) チューリップに似た
ユリノキの花

(6) 犀川岸のシダレヤナギの並木

る環境ではないが，市内のどこかにハゼの並木をつくるのも悪くはあるまい。

エノキ，むかし里程を表すのに榎を植えたと言われている。浅野川の川岸に以前並樹をしていたそうだが，今は僅にその残骸を見るにすぎない。私はかつてこの榎木の大な朽木が風もないのに根本から川の中に倒れて行くのを見て驚いたことがあつた。根が地表に張り出ていわゆる榎根をする点は街路樹としてはよくない。

アオギリ，樹幹の緑が美しい。金沢では並木と言うほどの物は見られない。

ハリエンジ（ニセアカシヤ）肥料木として植えられることも多いが，甘い花の香を愛でるためかこのハリエンジユを街路樹とする都市も少くない。而し針を持つ点はあまりよくない。

以上は金沢市の街路で見たものを主として述べたのであるが，次に現在金沢では殆ど街路樹としては採用されていないものをあげて見よう。

トチノキ，北陸の山地，特に沢にのぞんだ多少湿気の多い地にしばしば森をつくつて栃木が見られる。この事は栃木がこのような環境に適応していることを示すものであろう。広坂通の元の理学部の植物園に一本トチノキの大なものがある。毎年花をつけている。このトチノキに似たものにセイヨウトチノキとも言うべき，マロニエがある。このマロニエは西欧の都市ではしばしば，街路樹または庭園樹としてうえられて，市民に多大の安らぎをあたえている。このマロニエとトチノキとを比較して見ると，マロニエの方が枝葉がよく繁るので，日蔭を落す点で優れている。私はこのマロニエを金沢に移植したことがあつたがよく繁栄する。このマロニエの方が街路樹として優れている点が多いようだ。金沢市では両種を適当に選び，市街の並木をつくるとよかろう。

トウカエデ（唐カエデの意か）日本の所々に街路樹としてこのカエデがうえられており，旧理学部の構内でもよく生育しているので，金沢市にも適した樹であろう。トウカエデはイチヨウ，ケヤキ，などのような壮大なものとはならない。したがつて道巾の狭い所に都合のよい街路樹であるかもしれない。

ユリノキ，（ハンテンボケ）は代表的な街路樹で有名であるが，旧理学部構内に見事な生育をとげたものがある。金沢に適したものであろう。花の形がなんとなくユリの花に似ているので，ユリノキと言う名がつけられたものであろうが（写真⑤）英名の ***Tuliptree*** は，チユウリツプに似た花を持つ樹と言う方が一そう適切な名称かもしれない。またハンテンボクと言うのは葉形が伴纏に似ていると言うのであろう。

ポプラ，風にゆれるポプラの葉の音は美しい。市に住みポプラの葉にそよぐ風の音がきけたとすれば，その夜は心やすらかに市井の住家であるのも忘れてよく眠れるかもしれない。ポプラは最近パルプ材として広くうえられるようになり，また多くの改良品種がつくられるようになつて来た。また街路樹としてはその筆状に天に向つて立ちあまり横に広がらない点が秀れた点の一つとされている。また生育の早い点を買われているが，風に弱い欠点もあるので街路樹としては最適ではあるまいが，良と言うべきであろう。

フウ（楓）は南支，台湾などに自生するもので，テグスガの幼虫がこの葉をたべる。時にカエデと混同されるが，全く別な系統のもので，幹は真直にのび，カエデの類とは異なつた樹形を呈する。横に枝の張る方がカエデで，円柱形の樹冠を示すがフウである。しかし両方とも紅葉の美しいことは一致する。金沢市にはこの楓が栽植されたものがあり，カエデの類は市内の山地によく見受ける。

メタセコイア（アケボノスギ）は金沢ではよく生育する。適地であろう。材は役に立たないように見えるが，庭園樹，または街路樹としては面白いものであろう。私の見るかぎりでは石川県，いや北陸地方は日本で本種の最適地であろう。大に活用すべきである。

以上は主に本来日本に自生しない，外国種をとりあげたのであるが，日本に自生するもの特に北陸地方に自生する樹木で，街路樹として適当と思われるものを次に少しあげて見よう。

ホウノキ，朴の木と言うと，朴歯の下駄を思い出す人は少くないであろう。また朴の葉で飯を包み，それに黄粉をまぶし朴の香たべた思出を持つ人も金沢には多数あるにちがいない。元来植物はそれぞれ独自の匂を持ち，特に花の匂は顕著であるが，葉とか茎とかにも香を持つたものも少くない。そしてそれぞれの匂は独特のもので，それは時とすると植物，種類を分ける特性となることさえもある。ホウが街路樹としてすぐれたものであるかどうかは，その樹形，花および，北陸に多いことなどにより，判断されることになろう。

ドロノキ，前述のポプラのなかまで，北陸の山地にやや稀に見出される。金沢で栽培して見るとよくそだつ。ポプラより亭々としており王者の趣きがある。並木にはもつてこいと言つたもの，ただ花序が大きく市街に散り敷くとあまりよくないかもしれない。

ケヤキ，周知の樹木で，北陸には自生，植栽のものがいたる所に見出される。街路樹としてもすてがたいものであろう。

カラマツ，日本特産の夏緑の毬果植物，卯辰山公園内にも相当大きなカラマツが幾本かあ

る。そのほか金沢市の山地にも植林されたものをよく見受ける。街路樹として，その若葉を観賞することが出来るようになれば，市民の心もなごやかになるにちがいない。

カツラ，兼六園にカツラの大木がある。桂は別なものであろうが，このカツラの大木が竜宮の井戸のわきに立つていても不似合のものではなかろう。樹形が一寸とイチヨウに似ているので，遠くからこのカツラをながめた人がこれをイチヨウとまちがえた話をきいた事があつたが，どちらも古い型の植物であるのは面白い。早春このカツラの異色ある花を市中でたのしめるようになれば，市は一の名物を加えることにもなろう。

ブナ，石川県ではブナの自然の分布区域は海抜で言うと400 M位のところより，1,000より1,500 M位まであつたと考えられる。自然の状態ではそうだが，金沢市内でもよく生育する。したがつて市内の街路樹として十分そだたせることができるにちがいない。日本の代表的夏緑樹なので，市内にこの街路樹を見るようになれば，金沢も日本の文化都市として一躍名をあげることになるかもしれない。西欧では市内にセイヨウブナを見ることは珍らしいことではない。

ミヅナラ，ブナと一緒によくある夏緑樹で，やはり日本の代表的なもので，街路樹としてすぐれたものであろう。

以上日本産の夏緑樹で，市内に植えてよさそうな物を少し選んでみたが，これらのほかにこの目的にかなうものが多数ある。そこで，これらの樹木をどう植えるかが問題であるが私の一つの考えは道路の中央または両側に植樹地帯をつくり，そこにここにあげたような樹木の適当なものを植え，その主要な植木の下に，潅木または小喬木をあしらい，最下層に宿根草をうえることで，この考えに従つての一つのプランとして次のようなのはどうだろう。ブナを主要樹とし，その下にツバキ，特にユキツバキ，あるいは，サザンカ，ヒメアオキ，エゾユズリハ，ヤツデ，ニワトコ，キヤラボク，ハイイヌガヤ，チヤボガヤ，コマユミ，ヤマブキ，サツキ，サイゴクミツバツツヅ，タニウツギ，などの内のどれか，または数種，またそれらと同時にゼンマイ，イヌガンソク，クサソテツその他のシダ植物を混植し，またヒガンバナ，ナツヅイセン，ミゾソバ，ウマノアシカタ，トキワイカリソウ，ミヅヒキなど，金沢の山野に普通に見られる宿根草をうえるならば，そこに市民をたのしませる市街景観が得られるかもしれない。

私の並木道としての一つの設計画を示したが，これは極めて大ざつぱのものであるので，うえる植物の種類，街路の状態などにより，適切な考慮が払われねばならない。そして又一

定の給水装置をとりつけねばならない事はここに記述する必要のないことであろう。

今一つこの街路樹に対する私の理想の一つは，熱帯性のヤシ類の夏だけの並木を金沢市のどこかにつくることで，そのためには，街路の一つの通りだけでもよいから，前述の街路樹の位置に適当な大きさの植木鉢のはいる大きさの穴をあらかじめもうけておき，そこに，別な温室内で鉢植としてそだてて来たヤシ類，たとえばビロウ，ビンロウジ，ユスラヤシ，トツクリヤシ，フエニツクスなど，またはリヨジンシヨウ，ホウオウボク，その他のものを鉢のままこの穴に植えこみ，五—十月を街路樹として見せるもので，この大型の温室は冬は温室とし，夏はまた適当な用途を考えるべきである。

以上のようなことを言うと，大多数の人は夢のような話だと考えるにちがいない。しかし私は必ずしも実現できないものとは思わない。また前に述べたように，市の街路の全部を植物でうずめようと言うのもない。市とし出来るだけ多くの道路および将来のびる地域の適当な道路にそれぞれ，この意味での階級をもうけ，散歩に適した路，単なる自動車道路などにしたがつて全く樹木をうえないで少し芝生をおく程度より庭園状に至るまでを考えるべきであろう。そしてその上すべての植物は，いわゆる園芸家，庭師にまかせず，その市のある地方の植物に精通している植物学者を主として，その下に都市の街路植樹の計画をたてるべきで，外国また他の都市の街路樹のまねをすることをさけ，それぞれの都市の立地に適したものを選ぶべきで，金沢は金沢にふさわしいものとすべきである。（1964.6月10日）